

県政調査計画書

令和 8 年 9 月 10 日

神奈川県議会議員 杉本 透 殿

会派名 立憲民主党・かながわクラブ神奈川県議会議員団
 団長名 青山 圭一

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 市川 よし子 (団 員) 松崎 淳 柳瀬 吉助 飯野 まさたけ 須田 こうへい 野内 みつえ 相原 しほ 平野 みぎわ
2 調査目的	AIやIoTなどを活用した実証実験をサポートする事業を行っている福岡市や本年5月に「フィジカルAI共生都市宣言」をした北九州市、フィジカルAIの研究開発を行っている企業、DX・AIを活用した業務改善に取り組んでいる訪問看護ステーション運営事業者を訪問し、それぞれのフィジカルAIやDXなどの先端技術に関する取組を調査し、本県における先端技術活用の取組や産業振興施策、中小企業支援施策の参考とする。
3 調査期間	令和 8 年 11 月 11 日 ～ 令和 8 年 11 月 13 日
4 調査地	福岡県
5 調査項目	(1) 福岡市役所 福岡市では、AIやIoTなどを活用した実証実験プロジェクトを全国から随時募集し、ワンストップでサポートする「実証実験フルサポート事業」を行っている。そこで、本事業を調査し、本県における産業振興施策及び中小企業支援施策の参考とする。 (2) 北九州市役所 北九州市は、本年5月に「フィジカルAI共生都市宣言」をし、人とAI・ロボットが共に活躍する都市を目指している。そこで、本市のフィジカルAI推進の取組を調査し、本県における先端技術活用の取組や産業振興施策、中小企業支援施策の参考とする。



	(3) Human Physical Intelligence 株式会社 本企業は、人の身体特性や動作、意図に適応しながら身体活動を支援する装着型アシスト装置などを中心に開発を行っているフィジカルAIの研究開発企業である。そこで、実際のフィジカルAI研究開発の現場を調査し、本県における先端技術活用の取組や産業振興施策、中小企業支援施策の参考とする。 (4) プーラビダ株式会社 本企業は、DX・AIを活用した業務改善により離職率の劇的な改善などの実績を持つ訪問看護ステーション運営事業者である。そこで、本企業のDX・AIを活用した取組について調査し、本県における先端技術活用の取組や産業振興施策、中小企業支援施策の参考とする。
6 経費の概算額	1人当たりの議員旅費 … 279,754 円 内訳 交 通 費 … 200,079 円 宿 泊 費 … 72,800 円 視 察 料 … 6,875 円

* 日程表を添付する。

県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関等	調査箇所及び調査内容
1	11/11 (水)	福岡県	午前 午後	飛行機 公共交通 機関	移動(羽田空港→福岡空港) ●視察1「福岡市役所」 ・実証実験フルサポート事業 ＜福岡市内泊＞
2	11/12 (木)	福岡県	午前 午後	公共交通 機関 車両	移動(福岡市→北九州市) ●視察2「北九州市役所」 ・フィジカルAI推進の取組 ●視察3「Human Physical Intelligence 株式会社」 ・フィジカルAI研究開発の現場 ＜北九州市内泊＞
3	11/13 (金)	福岡県	午前 午後	車両 飛行機	●視察4「プーラビダ株式会社」 ・DX・AIを活用した業務改善の取組 移動(北九州空港→羽田空港)

県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 市川 よし子
	(団 員) 松崎 淳 柳瀬 吉助
	飯野 まさたけ 須田 こうへい
	野内 みつえ 相原 しほ
	平野 みぎわ

1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調 査 経 費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 279,754 円であり、基準を満たしている。	適
② 調 査 箇 所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 か所以上調査実施 移動日は 1 か所以上調査実施	2 泊 3 日の行程の中で、移動日は 1 箇所以上、それ以外の日は午前及び午後それぞれ 1 箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	(1) 福岡市役所 AI や IoT などを活用した実証実験プロジェクトを全国から随時募集し、ワンストップでサポートする「実証実験フルサポート事業」を行っている福岡市を訪問し、本事業を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (2) 北九州市役所 本年 5 月に「フィジカル AI 共生都市宣言」をし、人と AI・ロボットが共に活躍する都市を目指している北九州市を訪問し、本市のフィジカル AI 推進の取組を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (3) Human Physical Intelligence 株式会社 人の身体特性や動作、意図に適応しながら身体活動を支援する装着型アシスト装置などを中心に開発を行っているフィジカル AI の研究開発企業である本

	企業を訪問し、実際のフィジカルAI 研究開発の現場を調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。 (4) プーラビダ株式会社 DX・AI を活用した業務改善により離職率の劇的な改善などの実績を持つ訪問看護ステーション運営事業者である本企業を訪問し、DX・AI を活用した取組について調査することは、県政課題の解決の一助になるものと認められる。
② 調査の実施時期が時宜を得たものか。	今回の調査対象項目は、いずれも本県の課題と共通するものであり、本調査により先進的な取組や事例を調査することは、時宜を得たものである。
③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。	各分野において、今後の本県における施策に活用していくためには、現地に赴き、担当職員等から具体的かつ詳細に調査及び聴取しなければ調査目的を達成することができないものである。
④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。	調査箇所、行程、経費等は、県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当なものである。